

2016年10月31日　日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

<発表>

・映画「デスノート Light up the NEW world」公開

先週 10 月 29 日（土）公開。「君の名は。」にとって代わり、全国週末興行成績で一位になった。これからさらに多くの人に見ていただけると思う。

・「マリー・アントワネット展」開催

2016/10/25（火）～2017/2/26（日）六本木の森アーツセンターギャラリーにて 125 日間の開催。出足は好調。さらにたくさんの人々に来てほしい。

・「大エルミタージュ美術館展」来年開催

東京展は、森アーツセンターギャラリーにて 2017/3/18(土)～6/18(日)の期間開催予定。今回はエルミタージュ美術館からお借りした 85 点の素晴らしい作品を展示し、これまでよりさらに充実した美術館展になると思う。

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率データ

先週は三冠王だった。年間は先週までで 43 週経過しているが、40 回目の三冠王を記録できた。年度では 30 週のうち 28 回の三冠王。10 月月間も三冠王で、35 カ月連続。

・10 月クールの視聴率動向

今期はドラマ中心の改編だったが、視聴者のみなさんから一定の支持を得ることができている。制作陣はより良い番組を作り、多くの皆さんに支持されるようレベルアップしていきたいと思っている。

2. 営業状況

・放送収入

決算発表が間近に控えているので詳細は控えるが、9月の放送収入は昨年並み。視聴率の支えもあり、前年を少し上回って推移していくと思う。

・放送外収入

9月の大きな動きとしては「真田十勇士」の映画と舞台だ。映画はまだ続いているが、舞台は無事に千秋楽を迎える。興行成績も非常に良かった。「デスノート」が前作比100%以上の非常にいいスタートを切っている。大きなタイトルなので、皆さんの期待が大きかったことの現れかと思う。また、10月25日から始まった「マリー・アントワネット展」も、まだスタートしたばかりだが、SNS等での反応は非常に良く、期待している。

3. その他

・タイムシフト視聴とリアルタイム視聴

タイムシフト視聴率が10月3日週から公表され、併せて調査世帯数も900に広がった。視聴率データが充実したことは歓迎だ。前々から感じていたが、タイムシフト視聴ではドラマがよく見られているという傾向がある。これはリアルタイム視聴率で把握するよりもさらに多くの人がそのコンテンツを見てくれているということを示している。とはいえ、まだ始まったばかりなので、タイムシフトではどのような人たちがどのような形で見ているかが分析されてから、スポンサーの皆さんとの対話が始まるのではないかと思っている。また先日の日本シリーズでは、私たちは第6戦目を放送することができ、非常に高い視聴率を獲得した。こういったスポーツ視聴方法については、タイムシフト視聴よりはリアルタイム視聴の習慣は続くのではないか。スポーツ番組はリアルタイム視聴に強みを發揮すると思う。

・インターネット同時配信について

インターネットの同時配信については、総務省の審議会で議論が始まる。私たちは既に、熊本地震などの災害時に、ニュース専門チャンネル日テレNEWS24の災害報道をインターネットで同時配信している。報道機関としての重要な社会的な使命があり、国民の生命や財産に関わるニュースについては、積極的に報道し、報道機関としての役割を果たすつもりだ。

しかし今話題になっているのは、全てのテレビ番組をネットで同時配信するかどうかということだ。検討機関の中ではそういった問題が取り上げられつつある。NHKもそれに呼応して積極的に検討を進めているということで話題になっているようだ。私たちは民間の放送事業者なので、ユーザーやクライアントにどれだけのニーズがあるのかを把握する必要がある。インターネットでの同時配信もコストがかかるので、事業性も念頭に置いて検討

しなければいけない。NHK のように巨額の受信料を集めて、取り組めるわけではないので、慎重に対応する必要がある。それ以外にも著作権の権利の問題がクリアできるかどうか。制作に関わっている方々の中には、インターネットでの配信を受け入れないという姿勢を取っているところもある。さらに私たちも関東ローカル局だが、放送は地域免許制であり、地方局とインターネットの同時配信は調和できるのかできないのかという問題がある。そういういた放送制度の根幹に関わる問題も含まれているので、それらの課題が解決されるのか否かを見ながら慎重に対応していくつもりだ。

・4K・8K 放送に関して

総務省の4Kの実用放送にBS日テレが認定申請した。ホールディングの立場からはテレビの将来の可能性を広げるものとして、BS日本が申請したことは賛成だ。まだ放送免許がおりたわけではないが、将来の事業性を見越してのことと思う。とはいえ、受信機が多く世帯に普及するにも一定の時間がかかることが想定され、4Kコンテンツの制作ということにも多くの費用がかかる。そういうこともあり、すぐに黒字になるという甘い考えは持っていない。

・海外展開に関して

世界第2位のドラマ輸出大国トルコで、日本テレビドラマの「Mother」がリメイクされ、「ANNE(アンネ)」というタイトルで放送されることになった。日本テレビのコンテンツを、番組販売やフォーマット販売し、少しずつ海外展開を強化しているところだ。東南アジアでは、日本テレビの番組をメインに放送する“GEM”(ジェム)という有料放送チャンネルを運営しており、地域も順次拡大している。日本国内で評価の高かった番組は、海外でも高い評価を受けて、「Mother」のようにリメイクが行われることもあるので、まず国内で高い評価を得られるような番組を作ることが大事だと思っている。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員
中山良夫 取締役 執行役員 事業局長
福田博之 執行役員 編成局長

(了)